

次回以降の議題について

【●は取り上げ項目、太字は新規提案】

1 自然生態系（第2回）

- 稚アユ保護ロープ設置
- 鳥類の餌付け
- ホタルの生育環境の改善
- 外来生物
- 鳶の増加によるゆりかもめ保護の必要性
- 鴨川の生態系の保全策
- 河川愛護意識醸成のための生態系調査の実施について
- 鴨川河川敷にホタルの生息地を整備することについて

2 河川整備課題（第3回）

- 五条～下流域の整備計画
- 河川敷の整備方針について
- 河川敷における土系遊歩道の保全について
- 河川敷における土止めのための芝生の必要性について
- 鴨川流域の利用形態の区分について（上流は自然学習の場、中流は文化歴史を重視、下流は運動場など）

3 河川環境（第3回）

- 水質
- 樹木（さくら）の保護・育成
- 増水時の安全対策
- 鴨川上流域における河川環境
- 鴨川が残そうとする「美しさ」を明確にする（山紫水明など）
- 流域住民団体又は個人による環境等の維持管理
- 鴨川堤の保全
- 鴨川上流域における産業廃棄物処理施設について
- 流域住民にできる洪水防止対策等について
- 家庭でできる水質改善対策について
- 上流部の森林保全対策について
- 流水部のゴミ対策について
- 樹木（さくら等）の植樹について
- 府民の共有財産である鴨川の美化活動の在り方について（府民の自発的な参加を促す方策等）

4 中州管理（第4回）

- 生態系保全のための中州維持と治水問題等の中州除去の対立問題

- 5 ホームレス（第4回）
 - 橋の下の不法占拠住民（ホームレス）対策

- 6 河川空間利用（第5回）
 - 昼休みにも利用できる鴨川空間
 - 鴨川での迷惑行為
 - 公衆トイレの適正数と適正間隔
 - 自転車利用者増加に伴う自転車道の設置
 - 花の回廊に水辺としての要素を加える
 - 鴨川公園等のゴミ問題
 - 新たな迷惑行為の規制について（他の利用者を排斥するような無届の競技利用等）

- 7 魅力の発信（第5回）
 - 「鴨川・子供塾（仮称）」の設置
 - 歴史等の高札の設置
 - 鴨川に関するイベントの新設
 - 鴨川の浅瀬などを利用した子どもたちの水遊び場の設置
 - 鴨川の世界遺産登録を目指す
 - 堀川と連携した魅力発信について
 - 鴨川を通じた国際交流の取り組みの推進について
 - サクラの開花時期に植物園との一体となった開放について
 - 四季の日の新規イベントとして、「世界演劇祭典」を河川敷等での開催することについて
 - 鴨川における隠れた史跡等の紹介による名所の掘り起こしについて
 - 鴨川利用者に魅力を発信するための施設を設けることについて

第1～5回 鴨川府民会議での議論を受けての施策展開

検討・実施中の施策	
鴨川の外来生物について（第2回）	特定外来生物防除計画（植物）を環境省と協議の上策定（H21.3）
鳥類の餌付け（第2回）	・関係者との合同パトロール
増水時の安全対策（第3回）	川で遊ぶとき気を付けてほしいこと知らせる子ども向けDVDを作成し、府内全小学校や関係機関に配布
鴨川のホームレスについて（第4回）	京都市ホームレス自立支援等実施計画策定（H21.3） ・河川に起居するホームレスの危険性から、他の公共施設以上に早急な対応が必要と明記される ・さらに、鴨川等におけるホームレスへの具体的取組の検討に当たっては鴨川府民会議の意見交換の内容も参考にすると明記される
鴨川での迷惑行為（第5回）	府市協働パネルを設置（H20.9） ・府市連携による効率効果的な対策について検討中
	放置自転車対策 バーベキュー 打ち上げ花火対策

第5回府民会議後に提出された議題一覧

題名	分野	内容
私たち流域住民側の洪水防御対策	河川環境	全世帯に配られた『鴨川の「万が一」の洪水に備えて～鴨川浸水想定区域図の策定～』（H15. 5京都府）と『京都市防災マップ』（H16. 8～17. 3）をそれぞれの家当に当てて確認する/「雨水クワン」（貯留タンク）の設置。浸水被害減少のためと地下トンネルは工費が大変（堀川は併せて18億円とか）。/町内会・防災委員を通じて地域で助け合うシステムをしっかりとつくる。その他私たちで出来ることはないか。
地下空間の浸透問題	河川環境	地下鉄・地下街の「避難確保計画」（改正水防法）の策定を（2008. 12. 7京都新聞）。
水質	河川環境	合流式下水道からの雨天時放流水質基準値はBOD40mg/l以下（H36. 4までは70mg/l）と規定されたのでだんだんよくなるでしょうが、水質はBODだけで決まるものでもないところが悩ましいところですが、BODに限れば一番さたないのは家庭の台所の「排水枺」とのことこれを年に一度は掃除。油ものの皿は紙などでふきとる。「雨水クワン」で雨水の流出を減少させる。台成洗剤を使わない。などの配慮が必要。
森林の手入れ再生	河川環境	昨年、棧敷ヶ岳と梶山に登って思ったこと/棧敷ヶ岳はクリンソウ、ヤマシャクヤク、ヤマツツジ、雑木林の新緑が美しい山。ナベク口峠を下った途中の杉林は折れた木々が道をふさぎにくかった。梶山も同じ。森の整備が必要。温暖化の面でも森を見直す必要あり。
芝張り後の養生について（河川敷）	河川整備課題	・護岸寄りに張られた「芝」、通路とくらべて広く、皆さんはその上を歩いたり、自転車で乗ったりですぐすり切れ（？）てしまいます。土止めのおつもりでしょうが、いらぬのでは・・・。 ・小高くした広い芝の広場（出雲路橋・北・右岸側）から、芝を張るために下に置かれた砂が雨で流れ落ちてきて、通路をいっばいにし、さらに加茂川に入りこんでいます（雨水吐口・北横）。業者の方にお願ひしたいのは、工事後に一度は見回りに来ていただきたい。
川の中のごみ（紙、プラスチック容器など）	河川環境	御蔭橋からみても中洲にひっかかったゴミが実に多い。観光客の方々に恥ずかしいほど。3月半ばは七条から桂川合流まで13人ほど歩いていて、中洲に（京川橋より南にも）ゴミがひっかかっていて話題に。丸太町橋で川の中に入って三年間ゴミを取り続けた方の話では、取っても取っても上流から流れ着くのでとてもむなしかったとのこと。一人でこの作業をする自信は私にはないのですが、何かいい工夫はないでしょうか。
記念植樹受付（サクラ、エノキ他）	河川環境	昭和10年6月の水害のあと改修事業が終わった昭和22年に上賀茂の左岸の桜が植えられたそうです。知人の姉（昭和15年生まれ）が小学校入学の記念に植えた木もあるそうです。
環境保全区域内の廃棄物処理施設から復元へ	河川環境	地元の人に問合わせたと、2月末から新しい展開になっているとのこと。その結果を待って来年の議題に是非し下さい。

鴨川四季の日（の 関連紹介）に入れ てほしいもの	魅力の発 信	初夏/葵祭5月（この祭は賀茂川の河川敷で観るのが一番。左岸・北山橋より北から加茂街道をゆっくり緑の中を進む 行列をながめるのが良い。葵橋、北大路橋、御園橋と3つの橋をわたるの賀茂川の祭にしましょう。） 冬/鳥柱 丸太町橋あたり午後4時ごろユリカモメがねぐらに帰るとき。見頃です。「わらわら」と飛び込みがびびった り。
河川敷における 「走行競技」や 「自転車」の練習 利用について	河川の利 用	提案：河川敷での競技（走り、自転車）の練習等については、日曜日は避ける、もしくは8：00amから15：00 pm（仮に）は避けるというような規制を設けてはどうか。 理由：野鳥の会では河川敷を利用して探鳥会を実施しています。特に鴨川は安全であることから子供や高齢者や車い すでの参加があります。 しかし、ある中学校等では、先生を伴って走り競技のタイムを計りながら真剣に練習に励んでいます。でも、もし もその生徒とぶつかった場合には大怪我が予想され、のんびりと野鳥観察などしてられない心境です。 また、完全装備の装いで自転車競技に励んでられる方々も多く見受けられます。 「どけーっ！」と、罵声を浴びせながら猛スピードで走り去って行く方もあり、情けなくなるともいざしば。
鴨川堤に樹木を増 植することについ て	河川環境	鴨川堤には現状でも樹木は沢山植えられているが、多くは街路樹状の一例配列の植え方のため、放天下などで木陰を 求める時に十分な木陰が得られず、休養・安息の場として対応しない場合がある。もっと木を増やす（木の密度を 増やす）ことにより木陰を多くし、また花の咲く木・実のなる木を植えることにより、憩いの場としてののみなら ず、景観上また生き物の棲息に対しても良い影響をもたらすことが期待される。とくに、御池大橋より下流域は樹木 が少なく、樹木の増殖によって鴨川堤を景観面でもまた環境面でもまた環状面でも、緑の豊かな「緑の回廊」にしたいものである。
鴨川流域の使用区 分の明確化につい て	河川整備 課題	「鴨川河川整備計画」に基づき、鴨川の開発・改修工事が進められることになっているが、改修工事に入る前に鴨川 が有する機能（防災・環境保全・景観・歴史的環境・レクリエーション機能など）に準じて、鴨川全流域の使用区分 を明確にしておく必要が考えられる。即ち、鴨川の改修工事は、どこも一律に行うのではなく、予め決められた使 用区分に対応して適切に進められるべきであろう。例えば①鴨川の上流域は、生態系の保全・野外の遊び場や学びの 場（自然学習の場）としての機能を重視した使用②中流域（市街化域）は、歴史的景観・景観を重視した使用③下流 域は、防災を重視し、また運動場としての使用など、使用区分を決めてから、それぞれの流域に即した工事がなされ るべきと考える。

遊歩道の土質改良について	河川整備課題	<p>鴨川の遊歩道は、砂地のものとコンクリート舗装したものの2種があるが、砂地のものは雨が降った後など、道がぬかるんで歩道面が凸凹になったり、自転車の轍が出来たり、ひどい所では川のように砂の流出が見られる等、歩道の保全に悪影響を及ぼすのみならず、見た目にも見苦しい。(とくに、賀茂大橋～丸太町橋間西岸の新しく造成されたところがひどい様である。) 砂地歩道の保全策として、一部箇所雨水の排水溝を設置するか、砂地の上に木材のチップ・ゴムチップ・小粒の石などを散布・被覆するなど(京都御苑や植物園では、砂地歩道に木材のチップが散布されている)適切な方法により、歩道保全のための対策を講じる必要があると考える。</p>
鴨川美化に対する住民参加の呼びかけについて	河川環境	<p>大雨が降った後、減水した河川敷(鴨川・高野川共に)には多量の生活用品等の廃棄物が散乱しているのが見られ、美観上また環境面でも嘆かわしい状況である。とくに廃棄物の多くは、河川流域近辺の住民の心ない行為によると考えられる。よって、これら廃棄物を川に投げ込まないよう心掛けるとともに、一般ボランティアの参加・協力のもと、河川の清掃美化運動を定期的に進捗していただけたら、地域住民の意識の向上を喚起する呼び掛けを行う。呼び掛けの方法としては、単に清掃美化のための強制的な進め方ではなく、住環境の整備・美化によって、住み心地が良くなるだけでなく、各個人の住地の、地域の、ひいては京都市全体の資産価値を上げることが出来るとの見地に立って、清掃美化の必要性を説き、自主的な参加を促すようにする。</p>
鴨川の生態系の調査実施について	自然生態系	<p>鴨川には、水生生物・昆虫・鳥・小動物など、多くの生き物が棲息している。大都市の街中で、これほど生態系の豊かな場所を擁していることは市民としても誇らしいことである。今後とも豊かな生態系を守るとともに、更にはより豊かな状態に高めていくことにより、鴨川を自然学習の場として、また楽しみ・憩いの場としての質を高めていくことが望ましい。そのための方策として、学童や一般ボランティアの参加による、鴨川の生態系調査を継続的に行う。例えば、生き物の種類とその年次変化を調べる等の活動により、鴨川の生態系の学術的なデータを整備し、鴨川の自然環境保全を高めるとともに、鴨川を愛する人を増やし「鴨川をみんなの手で守る」という姿勢を強めていくことが期待出来ると考える。</p>
鴨川のホタルについて	自然生態系	<p>鴨川のホタルを守るため、ご理解を頂いてありがとうございます。大きな川なのでホタルを守り増やして行く活動の難しさをあらためて感じています。3月に堀川に水が流されました。この堀川にホタルが飛んだら良いなあと期待をしていましたが、ホタルが棲めるにはほど遠い仕上がりになっていて、残念に思っています。そこで、以前から想っていたことですが、鴨川河床もしくは河川敷に「ホタルの小川」を作る事は出来るのでしようか。「ホタルの小川」の管理は申し込みにより各小学校が担当。学区内に小川が無い子ども達や自然保護や環境を学ぶ良い教材にならないでしょうか。</p>

落差工について	河川環境	<p>落差工による水質悪化。落差工形状変更が可能か。と08年に提案しましたが、年ごとに水量が減少している鴨川では水質悪化は今後も進むとおもっています。07年に桂川の久世橋付近でも同じような意見が乙訓桂川愛護会から淀川河川事務所に出されており、河川事務所では「1号井堰から堰の改変を検討している」とらいますが、鴨川でも検討していただく可能性はあるのでしょうか。</p>
鴨川上流の森林保全について	河川環境	<p>近年、降雨量が少なくなっており鴨川の水量も減少しているように思っています。今年3月。急に暖かくなった頃に雪解け水でしょうか。鴨川出町橋では水量が増えた時期がありましたが現在は元にもどっています。京都気象台の降水量資料では50年単位でみると約20%の減少らしいです。雲ヶ畑には「水源涵養林」の看板がありますか効果があるとはありますか。また、雲ヶ畑森林組合の森林保全の取り組みなどありましたらご紹介ください。府としては、どのような取り組みをされているのでしょうか。</p>
「鴨川の日」について	魅力の発信	<p>去年一年「鴨川の日」の取り組みは地味だなあとというのが印象です。予算が少ないように企画するのは大変だなあとおもっています。予算を無視して世界の鴨川にふさわしい提案をさせていただきます。鴨川四条河原は歌舞伎発祥の地として世界中に有名です。この鴨川で「世界演劇祭典」開催はいかがでしょうか。</p>
『京都・水と緑と憩いの回廊、再発見！』	魅力の発信	<p>今回ようやく「堀川」が再生しました。京都市民として大変嬉しく思います。「堀川」に導水しているのは疏水であるとは言うものの、京都という都市においての象徴的存在である「鴨川」を基軸として、もう一本、南北を流れる清流が完成したという事は大変意義深いことであると思います。この二つの川のおかれている背景そのものは微妙に異なっているというものの、京都という大都市を流れている川として、同じ使命を持っていると思います。この「鴨川」近辺から『堀川』への流れを、一本の水の線と考える、即ち、この水の線を「水の回廊」としてとらえ、今後、何らか共同イベントを展開しては如何なものでしょうか。考え方としては、鴨川から堀川への水の流れを、『水の回廊』としてとらえることにより、大都市を流れる『水と緑の回廊』・・・つまり水と憩いの都市公園。これを、『京都・水と緑と憩いの回廊』と表現してはどうでしょうか。一年に2回程度、春と秋に、観光客をも巻き込んだ、楽しくそして有意義な、鴨川と堀川を舞台にした一過性ではない共同イベントを開催したいものです。もちろん、現在の「鴨川・四季の日」に「堀川」を巻き込んでほしいでしょう。具体的方法については議論を待つとしても、このように大都市を流れる二本の川を『水と緑の回廊』と表現、つまり『水と緑と憩いの回廊、再発見！』と位置付けてイベント展開も有意義なのではないでしょうか。</p>
河川内の整備について（中州対策）	中州管理	<p>・中州の除去を早急に実施する。それは治水、景観、衛生面から必須である。現状では、鴨川を愛する府市民の精神は生まれ、他府県の観光客も失望している。 ・堤防、河川敷の樹木を増植し小動物鳥類を保護する。（上流域）ただし、「大都市貫流」の河川である事が前提である。</p>

景観の保全、改善 対策について	河川環境	<ul style="list-style-type: none"> ・河川内の定期整備の必要性 ・自然を保ちつつ、列植・植栽の整備（乱れの改善） ・水質の改善 ・3山の植物生態系の研究と長期的整備
サクラの保全と育 成について	河川環境	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の「しはんザクラ」「なからぎのサクラ」は衰弱化しており、その保全を行う。 ・鴨川の河川敷数カ所にサクラの種類別ゾーンをつくり、将来京都のサクラ名所に育てる。 ・箇所別ゾーンを設置し、鴨川で長期にわたり（1カ月以上）サクラを楽しむようにする。 ・開花期間だけでも、鴨川・植物園の一体的開放をはかる。
鴨川の世界遺産登 録について	魅力の発 信	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の実現は実体上厳しいと思われるが、将来、文化自然複合資産としての登録を指向する。 ・この遠い目標に向かって行政（国も）、業界、府市民の役割を明確にし、実態整備をはかる。 ・この目標（スローガン）により府市民の自覚も生まれる。（近県では、「琵琶湖」が名乗りをあげつつある。他に 天の橋立、市内社寺の追加動向）
鴨川を通して地域 間外交や国際交流 をすることについて	魅力の発 信	水問題が世界的に注目をされ、川の意味や川を大事にする取り組みから、交流をして、川のネットワークをはかる。清水寺が清水会を全国の清水寺に呼びかけて4月3日を清水の日とされているように、ネットワークを作って交流して発信する。
鴨川の歴史的、文 化的観点から発信 と名所づくりにつ いて	魅力の発 信	鴨川の歴史は知られていないものも多く、その歴史を学ぶことは京都の歴史を学ぶことになる。明治維新後の鴨川の清掃を行う市民の様子は、今では考えられないほど、元気があり活気に満ち溢れていたこと等学んで鴨川との関わりも考察する。
鴨川の駅構想につ いて	魅力の発 信	道の駅があるように川の駅をつくる。いわば観光名所のビジターセンター的なものがあることによって、鴨川の魅力を更に発信し身近な川としていく。